

はしの なし

第四稿 引越した親柱、留まった親柱

「はしのはなし」では、皆さんに横浜の橋の歴史や小話を、定期的に紹介していきます。第4回目は、引越した親柱、留まった親柱について。橋の四隅についている柱を親柱と呼びますが、その親柱が他の場所に引越したり、橋がなくなっても留まることがあります。今回はその事例をいくつか紹介したいと思います。

親柱とは何か？

おやばしら

まず親柱とはなんでしょう。親柱とは橋の四隅にある柱のことを言います。現在の親柱は、橋のシンボルとして印象づける場合と、控えめな表現で橋へ人を迎え入れる場合に用いられるそうです（諸説あり）。それゆえ、「橋の顔」とも言われている親柱が、その橋の廃止や架替のタイミングでなくなることを偲び、引越させたり、橋がなくなった後もその場に留まらせることがあります。以下、そのうちの10事例を紹介します。

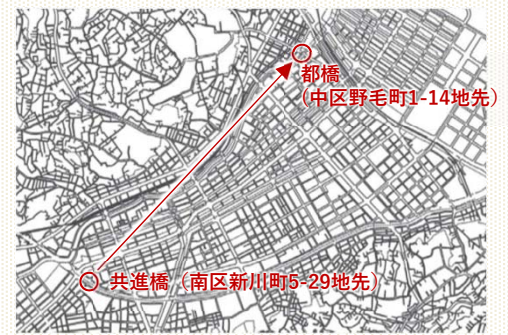
1 共進橋の親柱→都橋の親柱



都橋親柱（現在）



共進橋下流より望む（現在）



関東大震災の復興橋梁として架けられた南区の共進橋は昭和57年(1982)に高速道路の建設等に伴い架け替えられましたが、同時期に道路拡幅工事を予定していた中区の都橋に共進橋にあった親柱を4基引越させました。

2 吉田橋の袖高欄→鳥山大橋の親柱



鳥山大橋親柱（現在）



吉田橋（廃止前）赤破線が袖高欄



カネの橋とも呼ばれた吉田橋は明治2年(1869)竣工で2代目ですが、首都高速建設に伴い廃止された4代目吉田橋の袖高欄が昭和56年(1981)に港北区の鳥山大橋の親柱として引越しています。今回紹介する事例では最長の移動距離です。

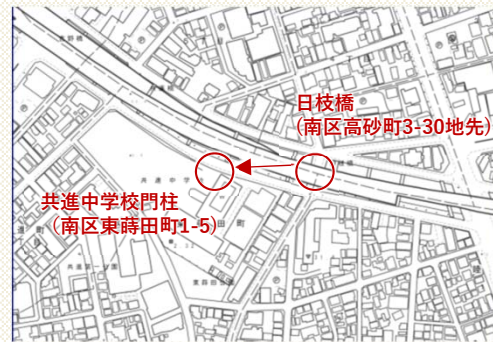
3 日枝橋の親柱→共進中学校門柱



引越した旧日枝橋の親柱（現在）



日枝橋（現在）



日枝橋は前項の共進橋と同様、高速道路の建設等を理由に昭和57年(1982)架け替えられました。関東大震災の復興事業で架け替えられた旧橋の親柱は、現在日枝橋近くにある共進中学校の門扉前に引越させました。

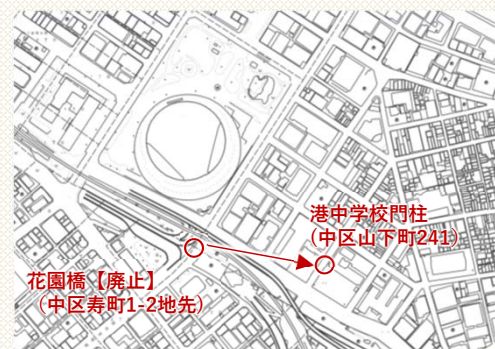
4 花園橋の親柱→港中学校門柱



引越した花園橋の親柱（現在）



花園橋（竣工当時）

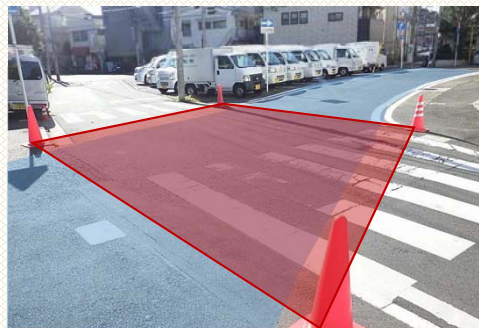


花園橋の親柱は、関東大震災の復興事業で設置された親柱の中でも最大級のものと考えられ、平成11年(1999)11月には有形文化財にも登録されている貴重な親柱です。昭和48年(1973)に高速道路の建設等に伴い花園橋が廃止され、その後、港中学校の門扉前に橋の親柱を引越させました。

5 東泉橋の親柱→大鳥小学校内



大鳥小学校内にある旧東泉橋の親柱（現在）



赤色が東泉橋で暗渠化。青色は川。（現在）



東泉橋は千代崎川に架かる橋ですが、関東大震災の復興事業で架けられた際に設置された親柱が同区の大鳥小学校内に引越しています。千代崎川に架かる橋は現在すべて暗渠化されており、現地で橋がどこにあるのか確認することは難しいですが、東泉橋も含め、現在も数橋残っています。

6 新港橋の親柱→山手資料館門柱



引越した旧新港橋の親柱（現在）

c



正面が新港橋、左側が新港橋梁（昭和10年頃）



新港橋は明治44年(1911)に竣工した橋梁で、昭和48年(1973)に架け替えられた際、山手資料館の門柱として引越させたようです。ちなみに、山手資料館の建物は明治42年(1909)に本牧1丁目にあった中澤家を昭和4年(1929)に諏訪町の園田邸に移築された後、昭和52年(1977)に現在地に再移築されたものです。

7 菊名橋の親柱→菊名池公園内



残された菊名橋の親柱（現在）



昭和38年頃、菊名池に菊名橋が架かる



もともとは田畑に水を引くための農業用水として造られた菊名池に菊名橋が架かったのは昭和10年頃だそうです。その後、生活排水による池の水質問題等を背景に池の上を通る水道管と周囲の下水道の整備すべく、昭和49年に池を埋め立て現在の菊名池公園と菊名池公園プールに二分されました。廃止された菊名橋の親柱は菊名池公園内に残されています。

8 天神橋（栄区）の親柱→天神橋際



残された旧天神橋の親柱（現在）



天神橋（現在）



現在の天神橋は昭和63年(1988)に架け替えられ、さらに平成18年(2006)に拡幅しています。架け替え前の天神橋の親柱は天神橋際に4基残されています。

9 宝橋の親柱→宝橋跡地際



残された宝橋の親柱4基（現在）



宝橋（昭和60年頃）



宝橋は昭和4年（1929）に竣工した関東大震災の復興橋梁のひとつです。宝橋はポートサイド地区の再開発事業に伴い廃止されましたが、現在も橋のあった際に親柱が4基すべて残されています。

10 ガーデン橋の親柱→ガーデン橋跡地際



残されたガーデン橋親柱（現在）



ガーデン橋（昭和60年頃）



ここ一帯は大正期に大澤氏が築いた横浜ガーデンという名の庭園があり、その前を流れる滝の川に架かっていたことからガーデン橋と呼ばれていました。昭和3年(1928)1月に竣工したコンクリート橋のガーデン橋は、現在「三ツ沢せせらぎ緑道」の整備に伴い撤去されましたが、橋の跡地に親柱を1基残しています。

【おわりに】

今回は引越した親柱、留まった親柱についていくつか事例を紹介しましたが、他にも市内には似たような取組がありますので、お散歩の際に探してみてもいいかもしれません。また、橋があったことを伝えるのは親柱や案内板だけではなく、以下に示すようなヒントがまちにはありますのであわせて参考にしてください。（商店街名、交差点名、バス停名、etc.）



【次回予告：魅力的な親柱特集（予定）】